

VOL.31 2014 SPRING



表紙：今年度で退任される初見 学教授（本文にご挨拶を掲載）

贈る言葉

初見 学 (はつみ まなぶ)

1948年 山口県生まれ
1971年 東京大学工学部建築学科卒業 (吉武研究室)
1973年 同工学研究科建築学専攻修士課程修了
清水建設入社
1976年 東京大学工学部建築学科助手
1981年 東京理科大学理工学部建築学科講師
1987年 工学博士。東京理科大学助教授
1997年 同教授
2002年 放送大学客員教授を兼任 (4年間)

昨年の暮れに、衣笠先生を通して、野田建築会会報部会の方から、同窓生や学生に向けて、退任にあたってのメッセージを、と頼まれました。理工学部建築学科での設計教育の変遷やこれからの展望については、「運河ブック 2013」にまとめましたので、よろしければご覧下さい。

ということで本稿では、毎年、私の研究室に所属の決まった学生や院生に、心がけるよう伝えている三つの約束を紹介して、メッセージとさせていただきます。

一つめは、時間を守ること。

約束を守ることと言い換えることもできます。他者への気遣いです。

次は、本人のいないところでその人の悪口を言わない。何事もフェアに、言いたいことは当人に面と向かって言ってほしい。

三つめは、言い訳をしない。失敗を自分の責任と考えないと、せつかくの機会が成長につながりません。なかなか守るのは難しいルールですが、これを実行できれば、人から信頼されるようになります。信頼関係がないところで良い仕事はできません。是非、試してみてください。

最後に、我々日本人の遺伝子の中には、長い間に培われてきた美意識や感性が刷り込まれているはずで、これからの時代、それを活かさない手はありません。遺伝



研究室にて

子を呼び醒まして、生活や仕事に活かしていただきたい。

呼び醒ますには、まず伝統的な民家や寺社を体験してみる、能や茶道といった伝統芸能や伝統技法と付き合ってみる。と同時に海外の異文化に触れてみる。そうすることで日本独自の良さを実感できるからです。

古代インドには「四住期」という、人生を四つの時期に分ける考え方がありました。

まず、勉強し成長する「学生期」、次は、仕事をして子どもを育てる「家住期」。

その後、子どもに家を譲り、時々孫に会いに家に帰る「林棲期」。最後は、世間のしがらみ一切を捨てて、天地自然と一体化するため、あちこち旅をして回る「遊行期」です。

隠居後が人生の半分を占め、それを二つに分けて考える知恵は、とても興味深く印象に残りました。

退任後は、これに倣い、国内外を旅して、自由な時間を満喫する積もりです。

1981年4月に講師として本学に着任して以来、33年間、個性的な先生方や若く元気で優しい学生達に囲まれて楽しい時間を過ごすことが出来ました。長い間、ありがとうございました。



2013年秋 バリ島へのゼミ旅行

初見先生退任に寄せて～教え子からのメッセージ

高橋 (1995年初見研修士)

人間はいつ成長するのかと、いつも不思議に思う。昨日今日では全く変わらないようにも思うし、数ヶ月程度だとうっかり差し込まれて後退することだってあるだろう。それでも一年もすると確実に変わっているような気がするから不思議なものだ。大学の最終学年とそれに続く修士課程という半生の岐路において先生に薫陶を得たことで、私の運命は大きく変わった。毎週金曜日だけは必ず研究室に顔を出し、その週に考えたことを報告しては先生の反応を伺う。今思えば稚拙な方法ではあったが、こうした機会を通じて、少しずつ私の思考は整理されていったのだと思う。独立後は非常勤講師としてまた研究室に所属することになった。以後十数年に渡って今日まで、毎週研究室に来てはその週にあったことを報告する日々が続いた。その間、私がどのように成長することが出来たのかを



問われるとまことに心許ないが、継続して少しずつでも形にしてお見せしていくしかないと思っている。初見先生、長い間お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

井上えり子 (旧姓：高岡) (1990～95年助手)

私が理科大に入学した年、初見先生はまだ若く (計算してみると33歳)、「先生」という感じには見えなかった。常に回りに大学院生がいて、彼らとは先輩後輩のような関係に見えた。

4年生になって初見研に入ると、他大学との交流が増え生活が一変した。大学周辺でもよく飲んだが、東京での研究会や見学会の後でも飲んだ。また、東大・芝浦工大と定期的に草野球の試合もおこなっていた。ちゃんとユニフォームまであった



1986年の野球大会にて

が、一生懸命練習した記憶はない。試合の後はやっぱり飲んだ。それが目的のような野球大会だった。

現在、私は大学に勤めており学生と接しているが、学生との付き合い方は初見先生から学んだ部分が多い。すなわち、教える・教えられるという関係以前に、応援する、励ますことが若い学生には必要だということである。そういう教育観が、私が初見先生からもらった一番の財産と言える。



初見研発足の日

関 雅也 (初見研 1 期生)

初見先生が理科大に赴任されたのは 1981 年の春で、研究室 1 期生の私が学部 4 年の時。先生の顔も知らない中で研究室に飛び込んだ。とにかく何か新しいものを求めていたヤツが集まったという感じだった。この時、初見先生は 33 歳。先生のご自宅での初見研発足パーティで記念写真をみても、学生の我々と同化している。

「居ないヤツの悪口は言うな」「実際に見ることに勝るものはない」「思ったことはまずやってみろ」「自分の設計ができないやつに建築の設計はできない」という 10 歳違いの先生からの教えは新鮮でとても胸に響いた。驚いたことに、後輩たちに聞いてもその後 33 年間この教えが全くブレていないのである。先生の教えのもと、ひとつでも多くの体験や経験をし、実体験に基づいた自信の持てる引出しを数多く持ち、そして建築の枠を超えて、幅広い分野にわたる行動的人間、積極的人間を数多く輩出する結果となっている。感謝しています。

桑原 聡 (初見研究室 第 3 期)

初見先生と僕は一回りの年の差がある。第 3 期メンバーとして研究室に籍を置いた当時、先生 35 歳。牛込に自身の設計でビルを建て、その最上階に自宅を構え、ルーバー扉の裏にテレビをしまい、生活感を消去した白い空間で幼い長女と住居居の奥様と三人で暮らされていた。何かという自宅での飲み会が催され、牛込という伝統ある街でのモダンな暮らしで僕らは洗礼を受けた。当然、僕の大きな目標となり、また、標的ともなった。隙あらばと、突っ込んでゆくが、あっけなくかわされてしまう。



そんなある日、君は「モモ」を読んだかい? と聞かれ、え? そんな建築書あったかな? ?。。まあ、とにかく読んでみなさい、といわれ、さっそく書店に走った。そこには「Zeit ist Leben (Time is Life) 時間とはすなわち暮らしなのです」とあった。今も僕の手元にはジークフリード・ギーディオンの「時間 空間 建築」とともにミヒャエル・エンデ作の「モモ」がある。先生が一貫して軸足を置いているのは生活であり、暮らしである。暮らしが先で空間が後だ。空間をデザインすることは暮らし、すなわち人生をデザインすることだ。ハプニングだらけの僕の人生。自分の人生をデザイン出来なきゃ建築家失格だよ。との声がかえりそうだが、どうやってそのハプニングをかわして

ゆくか、それもデザインなのですよ、と救ってくれるのもまた先生である。

先生のこれからの生き方のデザインが僕にとってどのような手本になってくれるのか多いなる楽しみの一つである。

追記

先生は長女に「モモ」と名付け、1984 年の卒業謝恩会の席で山口「モモエ」いい日旅立ちを歌った。

松田 雄二 (元初見研助教 2008 年～ 2012 年)

理科大にはまったく縁の無い人生を送っていた 2007 年の年末、初見先生に突然「理科大にこないか」とお誘い頂いたときには、ほんとうに驚きました。自分でやってゆけるのか、不安でたまらない私に先生は、「1 年目は松田君の好きなようにやって、好きなように失敗して下さい。2 年目からは失敗は許しません」との厳しくも優しい言葉をかけて頂きました。その後いろいろな事を教えて頂きましたが、今でも鮮烈に思い出すのは「すべての判断の基準は、それが学生のためになるのか、ということだけだよ」とくり返す先生の姿です (先生は覚えていらっしやらないかもしれませんが)。現在自分が学生たちを直接教える立場になってみると、教員としてのあり方はすべて初見先生に学んだなあ、と痛感いたします。初見先生、どうぞこれからも、色々勉強させて下さい。いつものように、素敵なお酒を酌み交わしながら。



鳥山 (初見研究室 20 期生)

私が大学院を修了して 2 年程経った 2005 年の頭に、初見研時代の仲間達と都心のボロ空き家を借り、セルフビルドで皆の作業場兼居場所を作る計画が持ち上がりました。「都心型初見研 ANNEX」と銘打って初見先生に企画を持ち込んだところ、大変面白がって下さり、賃貸保証人を引き受けて下さるなど、全面的に応援してくれました。大きな声では言えませんが、貧乏社会人だった私たちに、建物の改装費用も貸して下さるなど (あ、もう完済しています!)、金銭的な応援もいただき、自ら「足長おじさん」を名乗り、細かい口は挟まず、楽しみながら見守って下さる姿は本当に頼もしかったです。その場所「築地場」は、現在も形態をゆるゆると変えながら運営が続いており、今年、10 周年目に突入したところです。

最近でも、年に 1～2 度ほどは、お酒を飲みながらお話する機会がありますが、その都度、今の自分のあり方についてドキッとさせられる一言をもらいます。会わない間でも気にかけてもらっていることが嬉しくてほんのり温かい想いを胸に、でも駄目出しされてやっぱり悔しい想いをバネに、日々頑張っているような気がします。初見先生の「僕を面白がらせてね」という言葉が私の中で一つの基準になっています。これからも、皆に刺激を与え続ける存在でい続けて下さい。



冊子「東京 R 不動産」に掲載された築地場での写真

「平成 25 年度理工学部キャリア支援セミナー 特別講義」の報告

講師プロフィール

粟飯原功一氏（1985 年理工学部建築学科卒業）

1985 年㈱竹中工務店入社。以降、現場工事管理に従事。東京理科大学葛飾キャンパス計画図書館・集会場棟作業所長等を努める。

中村裕幸氏（1978 年理工学研究科建築学専攻修了）

1978 年清水建設㈱入社。英国環境省建築研究機構招待研究員、清水建設技術研究所生産管理研究開発部長、施工技術開発統括部長を経て 2004 年独立。同年㈱ DCMC を設立、さらに 2011 年㈱ woodinfo を設立し、それぞれ代表取締役にして就

任。これまで、東京理科大学非常勤講師（建築生産）、東京工業大学非常勤講師（経営工学）、早稲田大学アジア太平洋研究センター特別研究員（サプライチェーン）、東京大学生産技術研究所連携研究員（木材流通）、東京大学大学院工学系研究科非常勤講師（システムプランニング）を努める。

西山明彦氏（1995 年工学研究科建築学専攻修了）

1995 年清水建設㈱入社。入社 3 年目から 12 年間、海外で現場工事管理に従事。シェラトックアンタンホテル（マレーシア）、HDB センター（シンガポール）、フュージョンポリス（シンガポール）等を担当。

理工学部建築学科主任教授 大宮喜文

理工学部では、平成 25 年度後期（9 月下旬）より、理工学部全学生を対象とし、理工学部 10 学科から各 3 名の東京理科大学 OB・OG に講師をお願いし、オムニバス形式で「理工学部キャリア支援セミナー特別講義」（1 コマ 90 分講義）を開催しています。

本講義は、学生時代の早い段階から将来を見据え、目的意識を持って日頃の学習に取り組めるよう、特に学部 1、2 年生のモチベーションを高めることを目的とした内容を目指しています。講義内容は、企業・研究機関の技術者、研究者として、社会経験を積んだ業務内容の紹介や仕事に対する取り組み方、社会性やコンプライアンス等を含めた社会との係わり方について体験から得られた内容を各講師に依頼をしています。

建築学科の特別講義は、下記の通り、第 1 回～第 3 回までの計 3 回を担当しました。3 回の講義とも、60～70 名程度の参加者がありました。講演を頂いた後に設けた質疑も活発に行われ、90 分では時間が足らず、予定時間を 1 時間位オーバーするほど講師に質問（相談）している学生も見られました。今回の特別講義の意義を感じる事が出来ました。

3 名の講師の方々に御礼を申し上げますとともに、講師のご推薦をいただきました野田建築会の関係者の方々に、深く感謝いたします。今後とも、本学 OB/OG の方々のご協力が得られれば幸いです。

理工学部建築学科担当特別講義一覧

第 1 回 平成25年9月25日（水） 18:00～19:30（教室：K102）

講演タイトル「想いをかたちにする仕事」

講師：粟飯原功一氏（㈱竹中工務店）

講義内容：建築学科を卒業後、いわゆる、工事現場監督として、現場の第一線での施工管理に従事してきた経験を“想いをかたちにする”と題し、建物づくりのプロセスを紹介し、自分の仕事がどのように社会貢献できているかを、学生にわかりやすくご講義頂いた。



写真 1
講義風景（粟飯原功一氏）



野田キャンパス講義棟の
エスカレーターホール

第2回 平成25年10月2日（水） 18:10～19:30（教室：K103）

講演タイトル「ゼネコン技術研究所時代の経験を活かしたプロジェクト・プログラムマネジメント」

講師：中村裕幸氏（㈱ DCMC、㈱ woodinfo）

講義内容：就職するにしても、また、就職した企業で自分の価値を見出すにしても、自分の強みを作らなければならない。我々工学系の人間は、膨大で広範囲な基礎学習を通してのみ、強みを獲得できる。強みを獲得するには、10年20年先を見通したプログラムマネジメントが必要である。講師が実践した幾つかのプロジェクトを例に基礎学習をどのように実務に繋げていったかをご講義頂いた。

写真 2
講義風景（中村裕幸氏）



第3回 平成25年10月9日（水） 18:00～19:30（教室：K102）

講演タイトル「東南アジアにおけるゼネコンの仕事」

講師：西山明彦氏（清水建設㈱）

講義内容：「なぜ海外で仕事をするの？」「海外の仕事って大変そう」「外国語苦手なんだけど」そんな疑問に答えるべく、ゼネコン技術者として12年間の海外勤務で経験してきたこと、感じたことをご講義頂いた。

写真 3
講義風景（西山明彦氏）



OBと語る会（就職ガイダンス）：2013年12月9日

理工学部建築学科助教 小林謙介

12月9日（月）にOBと語る会が実施されました。今回は、昨年度と同様に、OBによる就職ガイダンスということで、3名の講師（理科大のOBリクルータ）をお招きし、ご講演いただきました。

はじめに、大成建設株式会社の中山史一様からお話を頂きました。まず、ゼネコンの仕事の概要について、業界の動向、仕事の流れなどを中心に、説明がありました。

続いて大成建設について、経営理念、スピリット（自由闊達、価値創造、伝統進化）などについてご紹介頂きました。また、事業領域についてもご説明頂き、新築物件、再生物件、海外物件など様々な事例をご説明頂くとともに、活躍のフィールドについてお話を頂きました。仕事のやりがいについては、人とのかかわりの中で建物を建築する事、プロジェクトのダイナミックさ（小さいものから大きいものまで）、建物が完成した時の達成感などを挙げて頂きました。

次に、東海旅客鉄道株式会社（JR 東海）の尾野勝様よりご講演頂きました。はじめに、会社の概要について紹介がありました。また、建築分野での仕事としては、駅の建替え、改修工事、リニア新幹線の環境アセスなどがあり、何れもプロジェクトの主体として活動するとのことでした。また、建築のライフサイクルにかかわることができるのが魅力であるとお話いただきました。求められる人材としては、自分でものを考える自律性、

使命感（自分自身の行動軸、継続的な行動の修正・改善、周りとの連携・連動）、技術者としての素養があることをお話いただきました。更には、ご自分の就職活動の体験を踏まえて、就活は自分との闘いであること、手段と目的を混同しないこと（就職が目的ではないこと）、自分には嘘をつかないことなど、学生に向けたメッセージを頂きました。

最後に、日本郵政の大谷雅彦様からお話を頂きました。初めにご自身の職歴などについてご説明を頂きました。仕事の内容については、全国に約24500局ある郵便局、また関連事業の施設（通信病院、かんぽの宿）だけではなく、民営化以降に行われるようになった不動産開発事業（例：JPタワー）などについてご紹介いただきました。また、日本郵便の物流拠点についても今後3～4年程度でリニューアルする予定で、建築出身者の活躍の場が非常に広いことをご紹介いただきました。

今回は、昨年同時期に初開催した、就職ガイダンスという形で実施しました。学部3年生や修士1年生を中心に、学生の関心も高く、60名近い参加がありました。懇親会も多くの学生が参加し、大変良い交流の時間が持てたと考えています。



中山史一様



尾野勝様



大谷雅彦様



数多くの学生らが集まった講演風景

開催に向けての
広報ポスター

野田建築学科OBによる就職ガイダンス（OBと語る会）

野田建築会（NAA）は、理工学部建築学科卒業生による同窓会です。年に2回程度、建築学科のOBをお招きして、現役学生の皆さんとの交流会を実施しています。今回は、同窓生リクルーターによる「就職ガイダンス」として開催いたします。社会の第一線で活躍のOBの方々に、さくばらんにお話を伺ってみませんか？

✓中山史一様

生年月日：1967年5月7日
出身都道府県：東京都
最終学歴及び所属研究室：理工学部修士課程 若松研究室
卒業年：1992年
現在の所属部署：大成建設設計本部 企画推進室
信条：独立自尊

✓尾野勝様

生年月日：1985年8月20日
出身都道府県：神奈川県横浜市
最終学歴及び所属研究室：理工学部修士課程 北村研究室
卒業年：2012年
現在の所属部署：東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部
中央新幹線建設部
信条：百聞は一見に如かず

✓大谷雅彦様

生年月日：1958年12月20日
出身都道府県：香川県観音寺市
最終学歴及び所属研究室：理工学部学士課程 野村研究室
卒業年：1982年
現在の所属部署：日本郵政株式会社 不動産部門施設部建築計画G
信条：何事も正直が一番

開催概要

- ◆日時
 - ・12月9日（月）
 - ・講演 17:30～
 - ・懇親会 19:30～
- ◆場所
 - ・2号館4階 オープンスペース
- ◆対象
 - ・主に、学部3年生、修士1年生
 - （勿論、上記以外の学生も歓迎）

ご不明な点は、井上研助教の小林まで。

主催：東京理科大学 野田建築会（NAA） Web: <http://www.rikadaikenchiku.com/>

上原研 OB 会に寄せて



上原孝雄（うへはらたかお）

1924年 茨城県水戸市生れ
 1948年 京都大学工学部建築学科 卒業
 1948年 運輸省鉄道総局（後の日本国有鉄道）入省
 1955年 鉄道技術研究所・建築研究室長を経て
 1975～1995年
 東京理科大学工学部建築学科教授
 研究分野：建築計画（建築人間工学）・工学博士
 1997年 東京理科大学 名誉教授

10月13日のOB会には久しぶりに懐かしい諸君に会えることを楽しみにしていましたが、8月25日突然体調を崩し、出席が困難となったので、残念ながら欠席とさせていただきます。

10月5日ごろ、幹事さんが拙宅を訪ねて下さるとのことなので、せめてメッセージの一文を託し、お詫びの言葉とさせていただきます。

ふり返れば当研究室は、昭和51年（1976）から平成7年（1995）までの20年間に、280有余人の有為な人材を輩出しました。それからはや18年が経過し今や諸君も還暦（60才）から不惑（40才）の年齢に達し、それぞれの立場で大いに活躍されて立派に業績を



先生ご自宅の書斎にて

上げ、社会に貢献してこられたことを、大変心強く、うれしく思っています。これはわたしにとって大きな誇りであると自負しております。

諸君がそれぞれ大学を卒業してから今日に至るまでの時期は厳しい時代でした。オイルショック、バブル崩壊、デフレスパイラルなど深刻な経済的不況に加えて、神戸・淡路大震災、東日本大地震など未曾有の自然災害にも見舞われた激動の時代でした。置かれた立場は異なっても、それぞれに困難な仕事に苦勞されたことでしょう。ようやくアベノミクスとやらで少しは明るさを期待したいところですが、どんな困難な時代でも夢や希望を捨てず、自ら志を立て、たゆまぬ努力を積み重ねてゆけば、おのずから道は開かれると信じ、どうか今後も前向きに進まれんことを期待します。

研究を共にしたクラスメイトや先輩後輩達は、生涯に亘って最も気心が知れ心おきなく接することのできる貴重な友人達です。どうかこのOB会が、旧交を温め情報を交換する場であると同時に、縦横の絆を一層深めてゆく場とならんことを切望いたします。また、これからは鬼籍に入る会員も次第に増えてくるのは致し方ないことです。この物故会員追悼のために是非一同で黙祷を捧げてくださるようお願いいたします。

この会が楽しく有意義で、盛大な懇親会となりますようはるかに祈っています。そして末永く続くことを期待して、お詫びの言葉にいたします。どうか諸君お元気で。

「上原先生のご趣味について」

OB会開催に先がけて、幹事代表らが図々しくも10月5日に先生宅へお伺いした際、皆が初めて触れたという、先生の多彩で多才な趣味をお伝えします。

まさに知る人ぞ知る「ミニチュア椅子の製作」で、以前から続けていた、瓶の中の帆船作りなど様々な経緯からここに至れるの感に、その精巧かつ緻密な作品に圧倒されました。

数ある作品のなかから、一部をご紹介します。

11月23日に大勢して押しかけたときの、ご夫婦と一緒に集合写真もご覧ください。

上原孝雄先生、奥様 どうぞいつまでもお体を大切にお過ごしください。また、先生を慕う教え子たちが押しかけます。

（1976年卒・上原研1期生山崎晃弘）



先生ご自宅の玄関にて



- ① 日本の美を世界に伝えた最初の椅子＝バタフライストूल（作：柳宗理）
- ② 世界的に有名なウィッシュボーンチェア＝通称 Y-チェア（作：ウエグナー）
- ③ 独特の高い背もたれで高名なラダーバックチェア（作：マツキントツシュ）などが見事にミニチュアとして再現されています。

上原研究室 OB 会を開催して



代表幹事
1985 年卒 千田 透
1985 年卒 白岩 和浩
1985 年卒 好士崎 倫子
(写真左から順に)



会場：サッポロ銀座ビル・スターホールにて

昨年 10 月 13 日(土)に上原研究室 OB 会を開催いたしました。おおよそ 18 年ぶりの OB 会開催でしたが、総勢 281 名のうちから 81 名の方々に出席いただき盛大かつ、なごやかなパーティとなりました。上原先生は体調を崩され、欠席されましたが諸先輩方、旧友たち、そして後輩の皆さんとの親交を深める良い機会となりました。



参加者 81 名で盛り上がる会場風景

本 OB 会は上原先生の卒寿のお祝いとして企画しました。このことについて上原先生から直接お電話をいただき、お喜びの気持ちとともに、「OB 会には必ず行きますよ。」としっかりとした意志を表明下さいました。前述のとおり残念ながら上原先生の出席はかないませんでした。事前に先生宅でビデオメッセージをいただき、会の参加者へ上原先生から OB の皆様に向けてのお気持ちを伝えることができました。

また会当日には、参加者から先生へのメッセージを会の様子と合わせて撮影し、後日先生にビデオと写真をもって報告しました。間接的ながらも卒業生と接することができ、上原先生にお喜びいただけたものと思っております。

OB 会の開催は、卒業年度ごとに 1 名の年度幹事をお願いし、出席の呼びかけをご協力いただきました。年度幹事の指名にあたっては、大半の方が初対面であったにもかかわらず、こころよく引受けて下さいました。そこには上原研究室 OB としての固い絆があり、貴重な財産があると確信しました。

既に上原研究室が理科大から姿を消して 19 年になろうとしていますが、OB の皆様の記憶と意志の継承の場として、OB 会は忘れたころに開催されるものではなく、訪ねたいときに出席できる会として、今後は定期的に開催されることを希望します。在学中は知りえなかった OB の皆様の社会的立場、社会人としての体験を基に、自分自身のことも再確認できました。それはあたかも過ぎ去ってしまった学生時代の自分に、現在を伝えることができたような感覚として今回の上原研 OB 会は参加者の心に刻まれたことと思います。

最後に、今回の会の開催に当たりまして貴重な助言を下さいました佐藤克志様、会を盛り立てて頂きました大宮喜文様に感謝を申し上げます。また一緒に全体幹事を勤めました熱き意志の白岩君、年度幹事で優れた情報整理力を発揮した好士崎さん、同期兩名には無力な私の分を埋め合せて頂きました。お礼を申し上げます。

奥田研究室 OB 会の報告

1989 年卒 高安重一

「今年も野外で奥田研究室の OB 会が開かれました」

2013 年 11 月 2 日の日曜日。今年度も奥田研究室の OB 会が代々木公園で開かれました。

屋外での開催は前年に続いて 2 回目です。レストランなどの会場ではなく昼間からオープンエアで行う意図は、時間が自由なのでいつ来てもいつ帰っても良い。

日中なので子供や家族で参加しやすい。

食べ物、飲み物は持ち寄りなので安くて済む。

お互いに持ってきたものなので、残したりせずに大切にいただく事ができる。

食べるのに飽きたら運動できる。

ただし屋外で過ごすには 11 月は天候によっては肌寒いこともあります。

そして今年はなんと雨の洗礼も受けてしまいました。

日陰よりも日なたが良かろうと準備をしていた矢先にパラパラと雨が降り出したので、大きな木の下に移動をして写真のようにスタートしたのでした。

当初大きな木の下では全く問題ない程度の小雨でしたが、1 時間程すると雨足が少し強くなり、とうとう「代々木公園撤収」を決断しました。

しかし 2 次会用に原宿のカフェを想定していたので、そちらに移動して OB 会は継続され、そちらから合流された OB も含めると 25 人程の皆さんとお会いする事ができました。

毎年行っていますので、去年は海外にいらして参加できなかった方も今年は参加され、昼間から夜まで続く OB 会なので仕事帰りに合流された OB もいらっしゃいます。セッティングや撤収など皆さんで協力して進めるのですが、手際がよく次回も雨にも負けずにやっていけるのではないかという思いを新たにしましたので、これをご覧になっている OB の皆さんも是非ご参集下さい。



代々木公園にて

野田建築会会報創刊 16 年目にあたって

1971 年卒 菊地利武

野田建築会は、この5月で設立から15年が経過し、16年目の第一歩を踏み出すことになります。その間、会報は年2回（春号と秋号）休刊することなく発行され30号を重ねてきました。

会報の継続的な発行は、紙面の企画・編集や発行・発送、発送に必要とされる名簿情報の整理・管理を担当する役員の地道な努力、そして原稿の執筆、情報提供などをしていただいた同窓生や建築学科教職員のご協力・ご支援の賜物と考えます。この紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

会報は、とりもなおさず野田建築会が取り組んできた同窓会活動の歩みの記録であり、その時々同窓生の活躍や同窓生相互の交流、理工学部建築学科や野田校舎の情報を同窓生に発信する重要なツールの役割を果たしてきました。

会報の発行には、会員各位の多大な労力とともに会費収入の多くが費やされています。平成24年度及び25年度の予算（案）では、年間735,000円、会費収入の約80%が支出計上されており、同窓会の最も重要な事業となっています。

会報の発刊事業は、野田建築会の同窓会活動を支える中核となるもので、是が非でも継続することが必要です。願わくば、更なる充実・進化を図って行きたいものです。そのためにも皆様の同窓会活動への積極的な参画並びにご協力をお願いいたします。

NAA からのお知らせ

【定期総会のお知らせ】

ご案内の通り、野田建築会では第9回定期総会を2014年5月24日（土）に開催いたします。同窓生の皆様には、ぜひともご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

【会費納入のお願い】

NAAでは会則により、2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、OBと語る会の開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。

（お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください）

【NAA サイトのリニューアル】

野田建築会のHPが新しくなりました。

また、野田建築会ではメールマガジンを発行して、大学内の近況やOBからの情報を発信しています。

登録されていない方は以下のHPをご覧ください、お申込みください。

<http://www.rikadaikenchiku.com>

【編集後記】

1976 年卒 山崎晃弘

今年度後半を振り返ったとき、いつもながら様々な出来事を思い出します。

天候では集中豪雨や竜巻被害、さらに東京で45年ぶりの大雪もあり、各地での被害には心からお見舞い申し上げます。

そんななか、直近でのソチ五輪では、大会初となった競技種目や20年ぶりの種目でのメダル獲得に、日本人として皆が歓喜に沸き、感動に包まれた日々がありました。

今年ご卒業される方々は、それぞれ社会人として新たな希望に向かい、遥かなる船出に旅立つことになり、まさにオリンピックに例えるなら、社会という競技種目に参加しました。いままでの知見にさらに磨きをかけて臨むことになるでしょう。ご活躍を大いに期待します。

さて、野田建築会幹事会としては、（仮称）理工学部50周年事業を含め、現役学部生・院生とOBの架け橋となる支援活動をはじめ、さらに充実した運営につながるようますます精進いたします。

つきましては、会員の皆様には今後ともご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



幹事会が行われるボルト
夕神楽坂ビル
門を抜けると裏手は神
楽坂キャンパス



冬の晴れた空に
ひと筋の雲

野田建築会会報 VOL.31 2014 SPRING

2014年3月1日

編集：会報部会

発行：東京理科大学野田建築会

〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会